

質問①

完全側臥位なら安全に食べられる、という方でも施設退院で介助が必要となると、特に新しい施設探しをする場合は完全側臥位であることでマンパワー的に難しいと言われ決まらないことがあります。そのため、完全側臥位にすることに躊躇ってしまいます。先生の病院ではどのように対応されていますか？

⇒ 回答

- 完全側臥位自体は横を向いて食べるだけなので、姿勢作りなどはそこまでハードルが高い訳ではありません。

実際に完全側臥位でどの様に食事を行っているのか外部のスタッフの方に確認して頂くとイメージが沸き、受け入れにつながる事もあります。健和会病院では地域の施設に向けて側臥位の実技講習なども行い、完全側臥位についての認識をして頂けるように取り組みを行ってみたりもしています。

- 施設の受け入れ条件なども確認させて頂き、ホールなどの出てくることが出来れば対応が可能という事であれば、フルフラットのリクライニング車椅子で完全側臥位をとり食事を行う事ができるか評価を行う場合もあります。介助に手を取られてしまい受け入れが難しいという事であれば、他の姿勢でも難しくなってくる可能性もあると思いますので、完全側臥位のどのポイントで受け入れの難しさを感じているのか整理して頂くと、対応方法も見つかる可能性があると思います。

質問②

側臥位姿勢で摂取するとなかなか覚醒が不良な方では傾眠傾向になりやすいと思いますが、そのような場合はどのように対応されていますか。

⇒ 回答

- 完全側臥位で覚醒不良の場合の対応方法について

覚醒不良の場合、食物認知、口腔機能面の問題に対して対応していく必要があります。食物が咽頭まで流入する事ができればその後は反射運動（嚥下反射）で摂取する事ができるため、開口や口腔内への貯めこみに対しての対応方法を検討します。

- 覚醒不良により開口が不十分な場合：下顎の引き下げ介助を行ってみる。
- 口腔内への貯めこみがある場合：頸部回旋を行う、スプーン介助時は奥舌まで挿入する。シリンジを用いて奥舌へ食物注入する。提供する食事形態を付着性の低い滑らかな物性のものに変更する
（ゼリー系や薄いとろみ等：流れ込みが速くなるため咽頭期の評価は必要）
- 口腔ケアや姿勢を変換などで覚醒を促す。

質問③

：2点質問です。咽頭に残留したものを最後はどのようにクリアして、食事終了とするのでしょうか？

もう1点は、嚥下圧が弱い方（咽頭に残留する）への対応はどのようにしているのでしょうか？食物をどんどん入れて流す感じでしょいか？

⇒ 回答

- 咽頭残留のケアについて：

フィニッシュ嚥下（食事の最後にとろみ水やとろみ茶などカロリーがないものを30cc～50ccほど摂取する）を行っています。フィニッシュ嚥下は咽頭残留物を食材から水分に置き換える考え方で、仮に咽頭残留物を誤嚥してしまった場合に食物誤嚥よりは水分誤嚥の方がダメージが少なくなります。また水分へ置き換える事で咽頭内の清潔性も向上し咽頭喉頭の知覚改善にもつながります。

- 咽頭残留してしまう方の対応：

質問に頂いたように、咽頭残留しながら押し出し式に食べていく事が出来る方もいますが水分などで交互嚥下を行って頂くと残留が軽減します。側臥位での食事中に残留物でムせる様子があれば、適宜水分と交互嚥下を実施する場合があります。また、付着性の低い食事形態に変更するもの残留量を減らす上では有効になります。付着性の引くいもの（ゼリーや寒天系、うすいとろみなど）は咽頭、喉頭への流入が速まりますので喉頭侵入や誤嚥リスクについては評価しながら判断していく必要があります。